

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2015.2.6

No.431



業況 BSI、2 期連続で上昇 (平成 26 年 10～12 月期の県内企業業況調査結果)

調査内容 平成 26 年 10～12 月期の県内企業の業況実績
平成 27 年 1～3 月期の県内企業の業況見通し
特別調査 県内企業の平成 26 年冬のボーナス支給状況

調査時期 平成 27 年 1 月上旬

調査対象企業 県内中堅企業 226 社

回答企業 118 社(回収率:52.2%)

{ 製造業 28 社 建設業 23 社 卸売業 20 社
小売業 15 社 運輸業 10 社 サービス業 22 社
青森地区 38 社 津軽地区 30 社 県南地区 50 社

BSIとは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である
指標の求め方は次の通り

BSI=「業況良好企業及びやや良好企業の割合」-「業況不振企業及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

1. 概 況

平成 26 年 10～12 月期の全産業「業況 BSI」は前期(26 年 7～9 月期)比 3.1 ポイント上昇の△7.8 となり 2 期連続で上昇した。消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動減の影響も次第に薄れつつあると思われ、小売業や建設業で大幅な改善がみられたほか、製造業も上昇した。

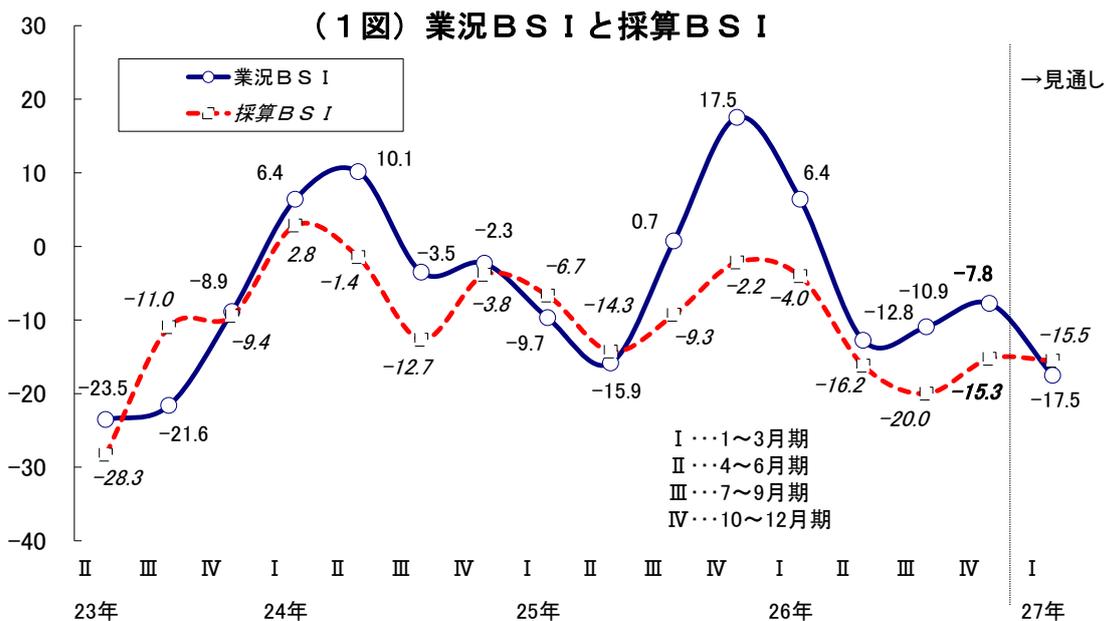
一方、全産業「採算 BSI」は同 4.7 ポイント上昇の△15.3 となり 4 期ぶりに上昇した。運輸・サービス業、小売業、卸売業の改善が全体を押し上げた。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「操業度 BSI」はともに低下した。建設業の「受注高 BSI」は再び低下したものの、高めの

水準を維持している。「売上高 BSI」は小売業が改善したものの、卸売業が大幅に低下したほか運輸・サービス業も低下し、3 期連続で低下した。「出荷高 BSI」は再び低下した。「仕入単価 BSI」、「販売単価 BSI」はともに 3 期連続で低下する中、価格ギャップは幾分拡大した。「在庫投資 BSI」は製造業で幾分上昇、非製造業は大幅に低下した。「設備投資 BSI」は製造業で大幅に上昇、非製造業も上昇した。

来期の見通しについては、「業況 BSI」が低下、「採算 BSI」は幾分低下する見通しである。

(以上、1～12 図、付表 参照)



(付表)平成26年10～12月期の主要BSI一覧 (※前期26年7～9月期)

	当期	前期比		当期	前期比
業況 BSI	-7.8	3.1	仕入単価 BSI	46.4	▲5.6
採算 BSI	-15.3	4.7	販売単価 BSI	10.3	▲8.7
生産高 BSI	-10.7	▲13.8	在庫投資 BSI 製造	0.0	3.1
操業度 BSI	-11.1	▲14.3	〃 非製造	-26.5	▲40.1
受注高 BSI	26.1	▲7.2	設備投資 BSI 製造	17.9	33.5
売上高 BSI	-19.4	▲9.8	〃 非製造	14.3	5.7
出荷高 BSI	-17.9	▲14.7	現金・預金 BSI	2.7	9.3

(付表)来期見通し (平成27年1～3月期)

	来期見込み	当期比		来期見込み	当期比
業況 BSI	-17.5	▲9.7	採算 BSI	-15.5	▲0.2

2. 26年10～12月期の業況

(1) 業況 —2期連続で幾分上昇—

26年10～12月期の全産業「業況BSI」は前期比3.1ポイント上昇の△7.8となった。業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合が同0.4ポイント減少の29.3%、業況悪化とした企業の割合は同3.5ポイント減少の37.1%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業は前期比4.5ポイント上昇の△14.3と上昇した。化学、電子部品・デバイス、精密機械器具などで好転がみられた。

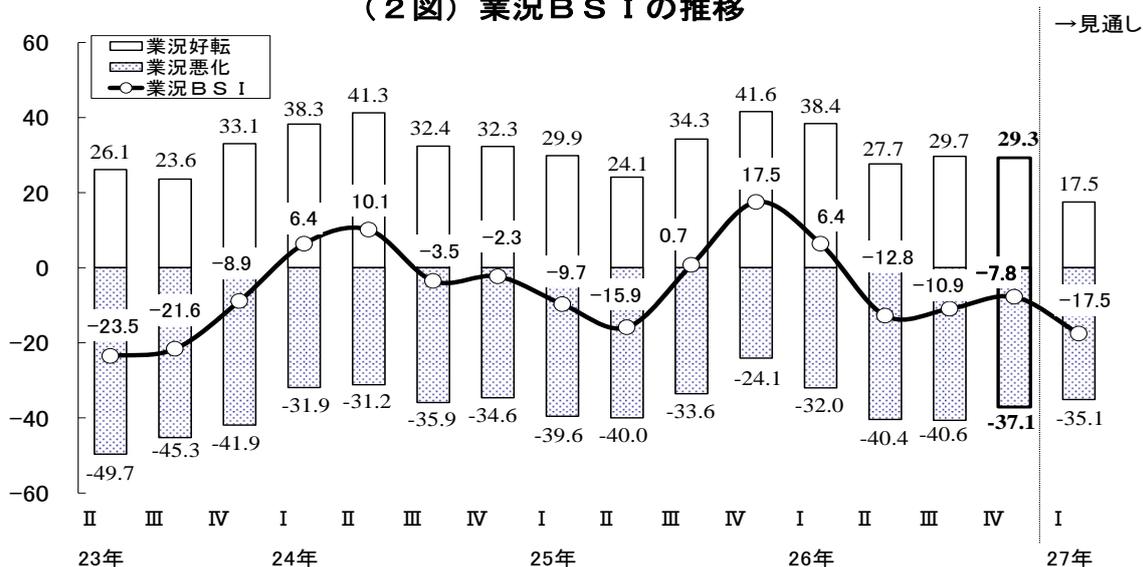
非製造業は小売業が前期比31.4ポイント上昇の△28.6、建設業が同17.9ポイント上昇の30.4となった。一方、卸売業が前期比25.0ポイント低下の△25.0、運輸・サービス業が同13.1ポイント低下の△9.7となった。小売業は燃料で業況好転が目立った

ほか、貨物自動車でも好転がみられた。建設業は総合建設で好転が広がったほか設備でも好転がみられた。卸売業は衣料品、水産物、建設資材で悪化がみられた。運輸・サービス業は貨物運送、宿泊、広告で悪化がみられた。

当期の「業況BSI」は2期連続で幾分上昇した。製造業が改善したほか、公共投資が増加した建設業、駆け込み需要の反動減の影響が和らいだ小売業などで改善がみられ、全体を押し上げた。

(以上、2図、付表 参照)

(2図) 業況BSIの推移



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
25年10～12月期	22.2	21.4	40.0	11.8	-6.5	17.5
26年1～3月期	-18.5	28.0	33.3	38.9	-29.0	6.4
26年4～6月期	-20.6	6.5	-4.2	-42.1	-12.1	-12.8
26年7～9月期	-18.8	12.5	0.0	-60.0	3.4	-10.9
26年10～12月期	-14.3	30.4	-25.0	-28.6	-9.7	-7.8
来期見通し	3.6	-22.7	-40.0	-28.6	-13.3	-17.5

(2) 採算の状況 — 「採算 BSI」 4 期ぶりに上昇 —

26 年 10～12 月期の全産業「採算 BSI」は前期比 4.7 ポイント上昇の△15.3 となった。採算判断の内訳をみると、採算好転とした企業の割合は同 3.2 ポイント増加の 13.6%、一方、採算悪化とした企業の割合は同 1.6 ポイント減少の 28.8%となった。

産業別の「採算 BSI」をみると、製造業は前期比 1.2 ポイント低下の△17.9 となり、製麺、精肉、化学、電子部品・デバイスなどで好転したものの、調味料、農産加工、酒類、水産加工、縫製、木材、鉄鋼で採算悪化がみられた。

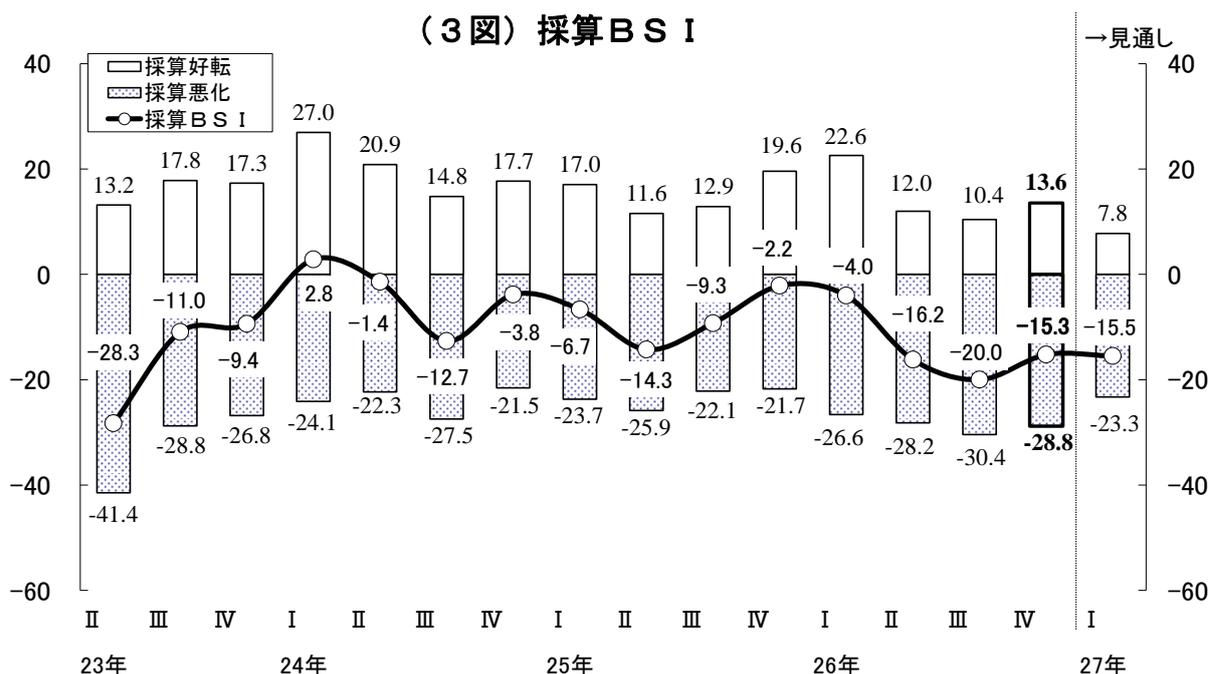
非製造業は、小売業が前期比 8.3 ポイント上昇の△26.7、卸売業が同 3.2 ポイント上昇の△15.0 となった。一方、運輸・サービス

業は同 11.6 ポイント上昇の△12.5、建設業は同 0.4 ポイント低下の△8.7 となった。

小売業はスーパー、衣料品、書籍、家電で悪化がみられたものの、貨物乗用車、燃料で好転した。卸売業は衣料品、水産物、建設資材、紙で悪化したものの、青果物で好転がみられた。運輸・サービス業は道路貨物運送、宿泊、タクシーで悪化がみられたものの、情報処理、警備で好転した。建設業は総合建設業で悪化がみられた。

当期の採算 BSI は、卸売業、小売業、運輸・サービス業の改善が全体を押し上げ、4 期ぶりに上昇した。

(以上、3 図、付表 参照)



(付表) 産業別採算 BSI の推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
25年10-12月期	2.9	-3.6	3.8	0.0	-12.5	-2.2
26年1-3月期	-11.5	4.0	20.8	27.8	-41.9	-4.0
26年4-6月期	-12.1	-12.9	3.8	-35.0	-28.1	-16.2
26年7-9月期	-16.7	-8.3	-18.2	-35.0	-24.1	-20.0
26年10-12月期	-17.9	-8.7	-15.0	-26.7	-12.5	-15.3
来期見通し	0.0	-21.7	-15.0	-20.0	-23.3	-15.5

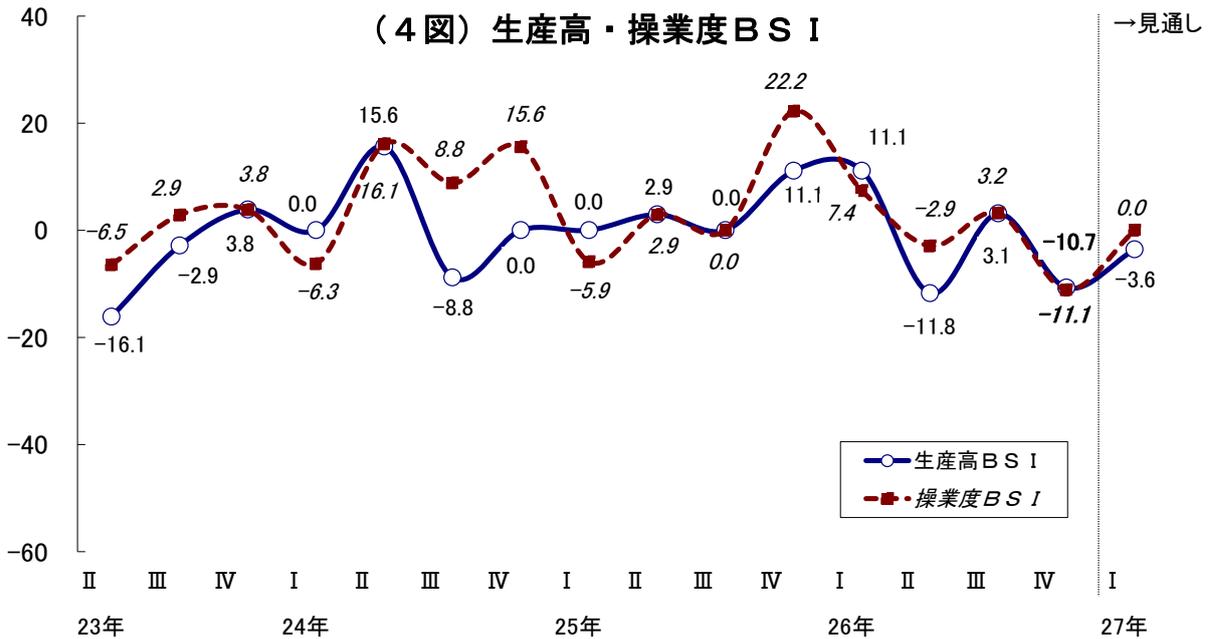
(3) 生産高・操業度の状況 — 「生産高 BSI」、「操業度 BSI」とも低下 —

26年10～12月期の「生産高 BSI」は前期比13.8ポイント低下の△10.7となった。水産加工、縫製で減産の動きとなった。

一方、「操業度 BSI」は同14.3ポイント低下の△11.1となった。水産加工、縫製、木材・木製品、鉄鋼で低下を示した。

来期は「生産高 BSI」が当期比7.1ポイント上昇の△3.6、「操業度 BSI」が同11.1ポイント上昇の0.0となる見通しである。

(以上、4図参照)



(4) 受注高の状況 — 「受注高 BSI」再び低下、ただし高めの水準は維持 —

26年10～12月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比7.2ポイント低下の26.1となった。内訳をみると、受注増加とした企業の割合が同10.7ポイント減少の43.5%、一方、受注減少の割合は同3.4ポイント減少の17.4%となった。当期の BSI は前期より低下したものの、2期連続で高めのプラス水準を維持している。

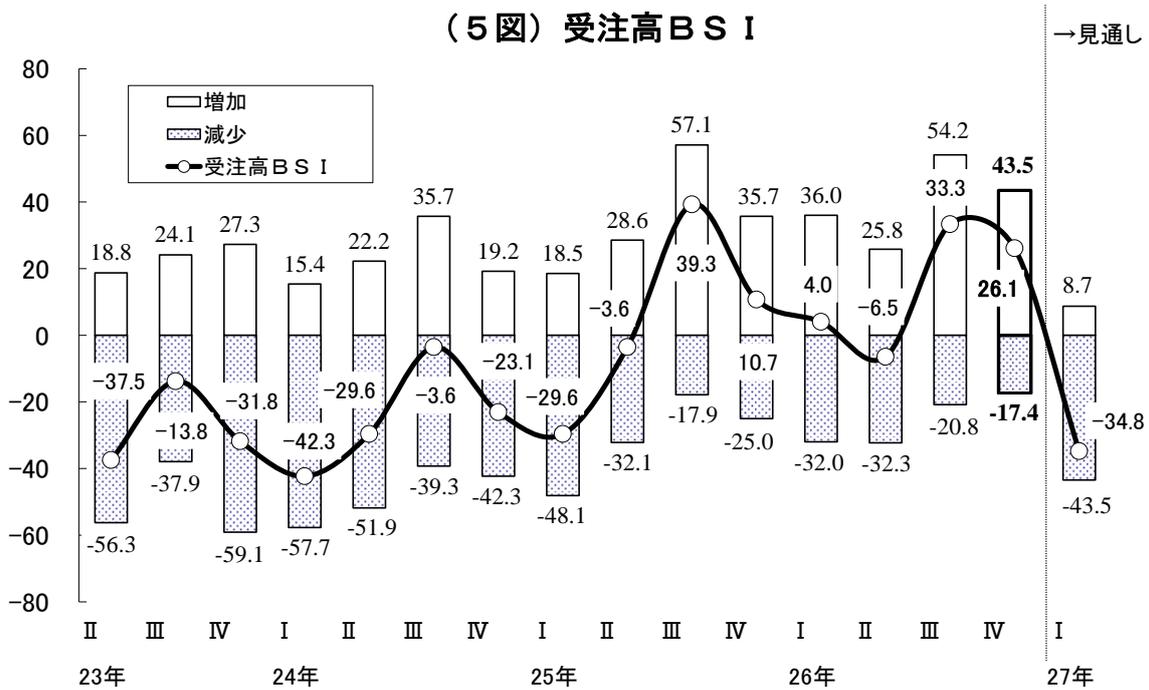
当期は、駆け込み需要の反動減の影響が和らぎ、総合建設、職別工事、電気設備で増加がみられた。

来期は受注増加とする割合が当期比

34.8ポイント減少の8.7%、受注減少とする企業の割合は同26.1ポイント増加の△43.5%と見込まれている。この結果、「受注高 BSI」は同60.9ポイント低下の△34.8と大幅に低下する見通しである。

(以上、5図参照)

(5図) 受注高BSI



(5) 売上高・出荷高の状況

—小売業上昇、卸売業大幅低下—

26年10～12月期の「売上高BSI」は、前期比9.8ポイント低下の△19.4となり、3期連続で低下した。

産業別の「売上高BSI」をみると、小売業が前期比20.0ポイント上昇の△20.0となったものの、卸売業が同30.8ポイント低下の△35.0、運輸・サービス業は同16.3ポイント低下の△9.4とそれぞれ大幅に低下した。

小売業は衣料品、自動車、酒類、燃料、家電で減少割合が前期に比べて少なくなった。駆け込み需要の反動減の影響が幾分和らいだと思われる。

卸売業は衣料品、青果物、建設資材、機械器具、紙類、肥料、管材、食品機械、水産物、漁網など多くの業種で減少した。

運輸・サービス業は旅客運送、ガス、情報処理、介護で売上増加がみられたものの、貨物運送、宿泊で減少が広がったほか、不動産賃貸、レンタル、広告などで減少した。

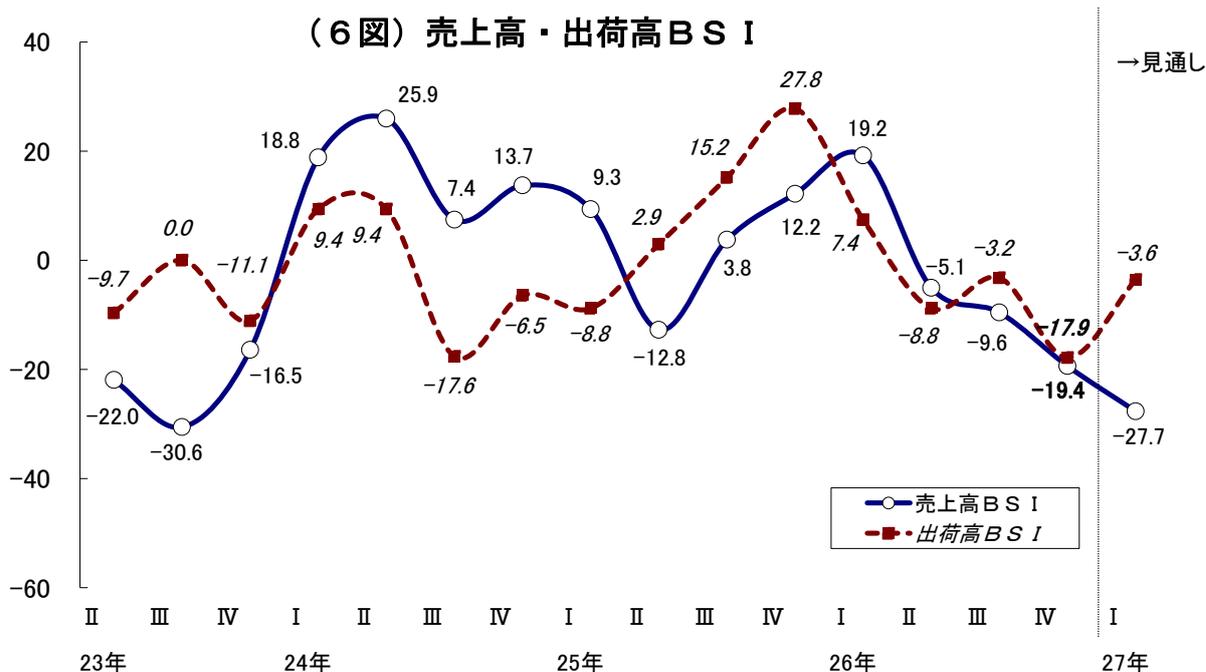
なお、来期の「売上高BSI」は、卸売業、小売業、運輸・サービス業のすべてで低下

が見込まれ、全体では当期比8.3ポイント低下の△27.7となる見通しである。

製造業の26年10～12月期の「出荷高BSI」は前期比14.7ポイント低下の△17.9となり再び低下した。麺類、精肉、水産加工、化学、電子部品・デバイス、精密機械などで増産の動きがみられたものの、水産加工、調味料、農産加工、酒類、縫製、木材・木製品、パルプ・紙、生コン、鉄鋼、農業機械などで出荷減少の動きが広がった。

来期の「出荷高BSI」は、農産加工、水産加工、飲料で増産に転じる動きが見込まれているほか、全体に減少とする割合が落ち込み、当期比14.3ポイント増加の△3.6となる見通しである。

(以上、6図、付表 参照)



(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI		売上高BSI		
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
25年10-12月期	27.8	30.8	23.5	-9.7	12.2
26年1-3月期	7.4	45.8	33.3	-9.7	19.2
26年4-6月期	-8.8	15.4	-35.0	-3.0	-5.1
26年7-9月期	-3.2	-4.2	-40.0	6.9	-9.6
26年10-12月期	-17.9	-35.0	-20.0	-9.4	-19.4
来期見通し	-3.6	-45.0	-33.3	-13.3	-27.7

(6) 価格の状況 —価格ギャップ、5期ぶりに幾分拡大—

26年10～12月期の「仕入単価BSI」は前期比5.6ポイント低下の46.4と3期連続で低下した。産業別にみると、製造業が前期比1.2ポイント低下の51.9、非製造業が同7.6ポイント低下の43.9となった。

製造業は水産加工、酒類など食料品全般で仕入単価上昇の動きが広がったほか、パルプ・紙、化学、生コン、農業機械、一般機械など幅広い業種で上昇の動きがみられた。

非製造業は、卸売業が前期比14.2ポイント低下の40.0、建設業が同1.1ポイント上昇の63.6となった。一方、小売業は同15.0ポイント低下の20.0となった。

建設業は仕入単価上昇とする割合が6

割超を占め、低下とする回答はゼロであった。卸売業は衣服、水産物、建設資材で上昇がみられたものの、青果物、機械器具、漁網で減少した。小売業は、衣服、スーパー、家電で上昇したものの、自動車で低下がみられた。

26年10～12月期の「販売単価BSI」は前期比8.7ポイント低下の10.3と3期連続で低下した。産業別にみると、製造業が前期比2.6ポイント上昇の21.4、非製造業が同12.4ポイント低下の6.7となった。

製造業は縫製、木材・木製品で販売単価低下がみられたものの化学で上昇した。

非製造業は、小売業が同20.0ポイント低下の△20.0、運輸・サービス業が同18.7ポ

イント低下の6.3、卸売業が前期比10.8ポイント低下の35.0と、それぞれ低下した。一方、建設業は前期と同じ0.0となった。

建設業は、総合工事で低下したとする割合が増加したものの、設備工事で上昇がみられた。卸売業は、燃料、漁網で低下がみられた。小売業はスーパーで上昇がみられたものの、自動車、燃料で低下した。運輸・サービス業は旅客運送や観光業で上昇がみられたものの、貨物運送で低下、宿泊業で低下や上昇割合の減少がみられた。

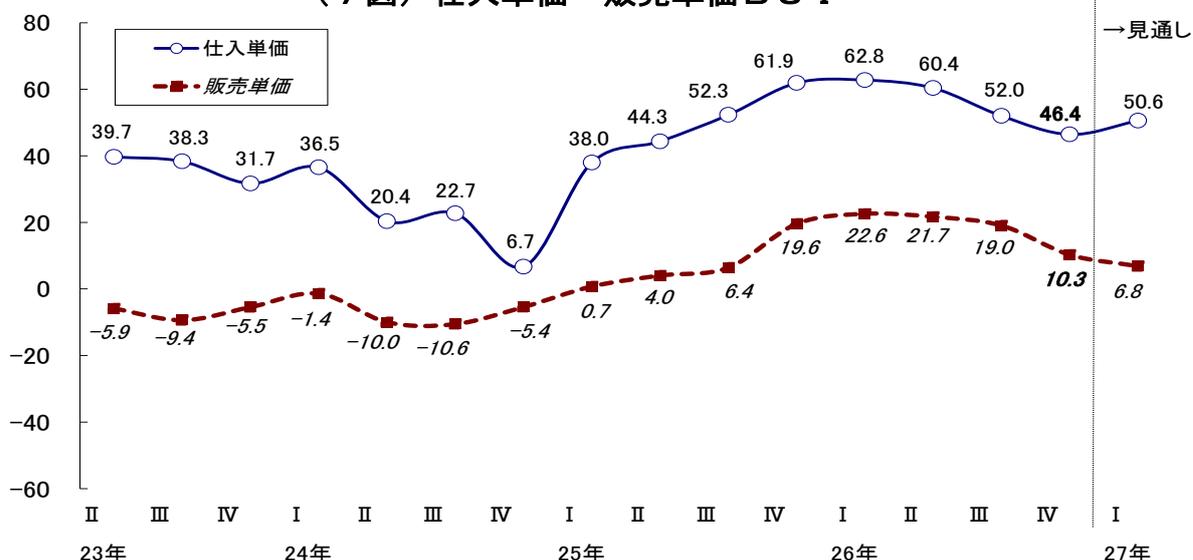
この結果、当期は仕入単価、販売単価と

も低下するなか、価格ギャップは5期ぶりに幾分拡大した。

なお、来期については、「仕入単価BSI」が当期比4.2ポイント上昇の50.6、「販売単価BSI」が同3.5ポイント低下の6.8となる見通しである。産業別にみると、それぞればらつきがみられるものの、全体としては横ばい圏内の動きが予想される。

(以上、7図、付表 参照)

(7図) 仕入単価・販売単価BSI



(付表) 仕入単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業					仕入単価BSI
	建設業	卸売業	小売業	非製造業		
25年10-12月期	58.8	78.6	57.7	47.1	63.4	61.9
26年1-3月期	66.7	64.0	70.8	44.4	61.2	62.8
26年4-6月期	64.7	67.7	61.5	40.0	58.4	60.4
26年7-9月期	53.1	62.5	54.2	35.0	51.5	52.0
26年10-12月期	51.9	63.6	40.0	20.0	43.9	46.4
来期見通し	55.6	65.2	50.0	20.0	48.3	50.6

(付表) 販売単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業					非製造業	販売単価BSI
	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス			
25年10-12月期	16.7	-7.1	50.0	29.4	16.1	20.6	19.6
26年1-3月期	25.9	8.0	41.7	50.0	0.0	21.6	22.6
26年4-6月期	26.5	6.5	40.0	15.0	21.2	20.2	21.7
26年7-9月期	18.8	0.0	45.8	0.0	25.0	19.1	19.0
26年10-12月期	21.4	0.0	35.0	-20.0	6.3	6.7	10.3
来期見通し	17.9	4.3	25.0	-13.3	-3.2	3.4	6.8

(7) 在庫投資・在庫水準の状況 —非製造業で不足感強まる—

26年10～12月期の「在庫投資BSI」は、製造業が前期比3.1ポイント上昇の0.0、非製造業が同40.1ポイント低下の△26.5となった。

製造業は調味料、縫製、木材・木製品、化学、鉄鋼などで在庫手控えとなったものの、酒類、水産加工、麺類、飲料で積み増しの動き。非製造業をみると、卸売業は建設資材、水産物、機械器具、紙類などで、小売業はスーパー、衣料品、燃料などで在庫手控えがみられた。

来期の在庫投資BSIは製造業が当期比10.7ポイント低下の△10.7、非製造業は同11.8ポイント上昇の△14.7と見込まれる。

次に在庫水準についてみると、まず製造業の「原材料在庫水準BSI」は前期比5.2ポイント上昇の△14.8となった。水産加工、

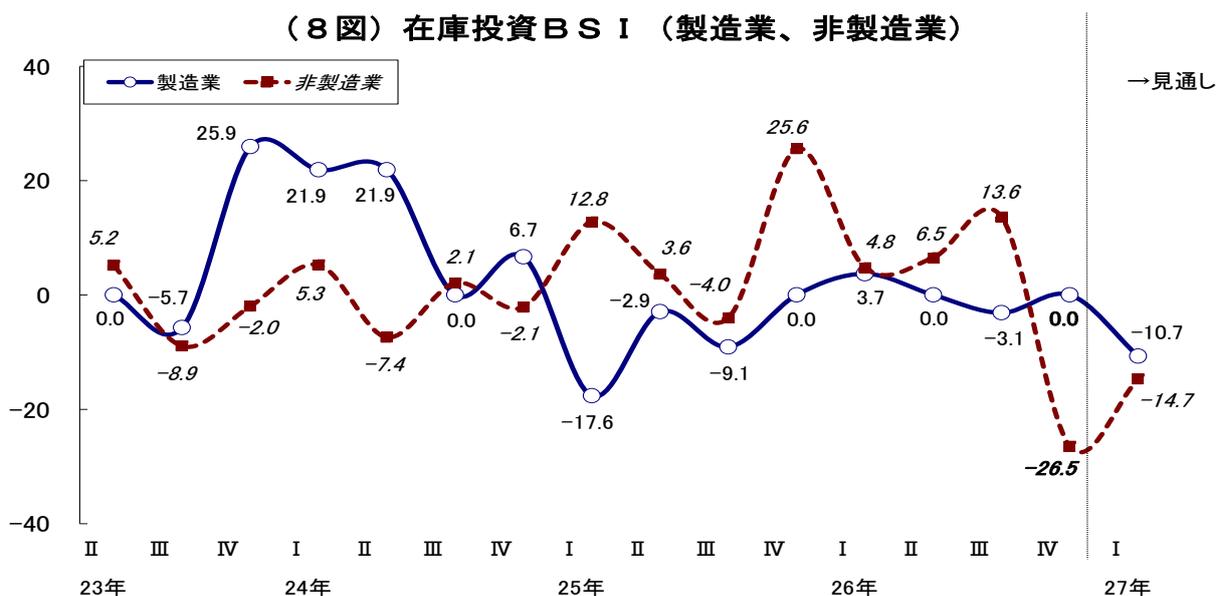
精肉で不足感がみられた。

来期は幾分不足感が和らぐ見通しとなっている。

一方、「製品・商品在庫水準BSI」は、製造業の「製品在庫水準BSI」が前期比4.0ポイント低下の△7.1、卸・小売業の「商品在庫水準BSI」が同3.4ポイント上昇の5.7となった。製品はパルプ・紙、生コンで過剰感がみられたものの、水産加工、縫製、鉄鋼で不足した。商品は卸売業の衣料品、水産物や、小売業の衣料品で過剰感がみられた。なお卸売業の乾物で不足感がみられた。

来期は製品が当期と同水準の不足感が続き、一方、商品は過剰感が幾分和らぐものと見込まれる。(以上、8図、付表参照)

(8図) 在庫投資BSI (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連BSIの推移

	在庫投資BSI		原材料在庫水準BSI	製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	製造業	卸・小売業
25年10-12月期	0.0	25.6	-14.3	-2.8	16.3
26年1-3月期	3.7	4.8	-30.8	-7.4	2.4
26年4-6月期	0.0	6.5	-12.1	0.0	0.0
26年7-9月期	-3.1	13.6	-20.0	-3.1	2.3
26年10-12月期	0.0	-26.5	-14.8	-7.1	5.7
来期見通し	-10.7	-14.7	-11.1	-7.1	2.9

(8) 設備投資の動向

—製造業、非製造業ともに上昇—

26年10～12月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比33.5ポイント上昇の17.9と3期ぶりに上昇した。一方、非製造業は同5.7ポイント上昇の14.3と2期連続で上昇した。

製造業は、調味料、酒類、麺類、パルプ・紙、生コン、農業機械、電子部品・デバイス、精密機械で上昇した。具体的にはパルプ・紙で設備維持・更新、生コンで地下タンク維持修繕、電子部品・デバイスで機械装置、金型、精密機械で加工機購入などの積極的な投資がみられた。

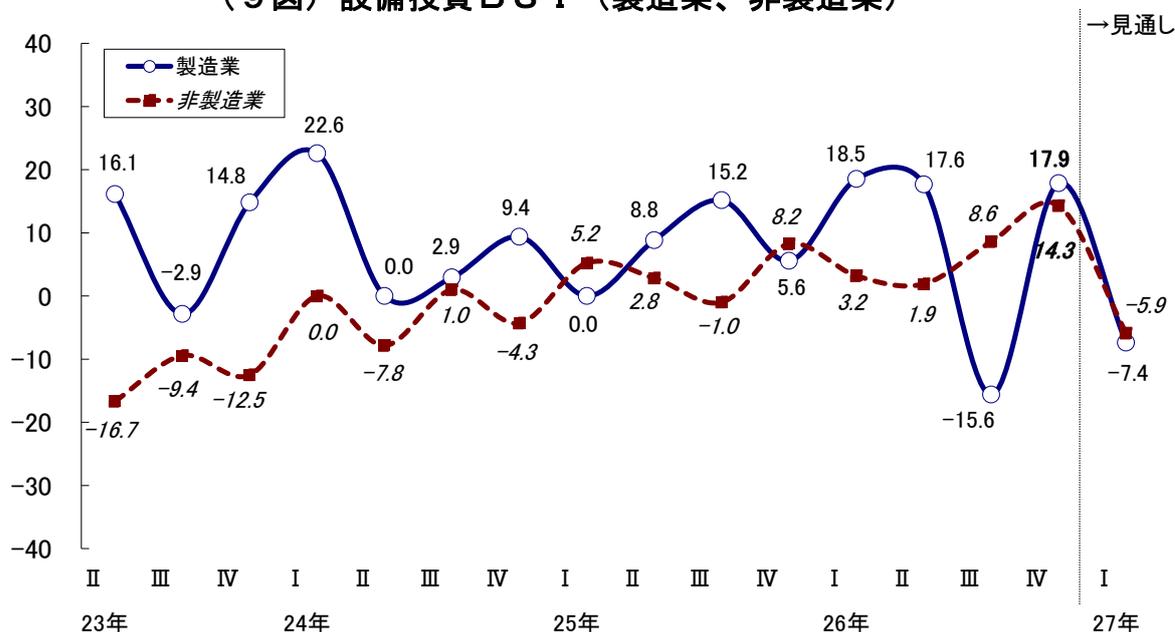
非製造業をみると、建設業は車輛、建設機械、除雪機械、業務用土地、貸倉庫・貸駐車場などの購入投資がみられた。卸売業は建設資材で車輛、洗車機など、小売業はスーパーで店舗建設、自動車販売で店舗

改善などの投資がみられた。運輸・サービス業は旅客・貨物運送で車輛購入や設備の維持更新、宿泊でエレベーター保守・修繕、情報処理でOA機器更新などの投資がみられた。

なお、来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比25.3ポイント低下の△7.4、非製造業は同20.2ポイント低下の△5.9と見込まれている。大幅な低下が見込まれるが、そうしたなか製造業ではパルプ・紙で設備維持・更新、非製造業では建設業での重機や社屋建設、小売業ではスーパーで店舗の建設、維持更新、宿泊業で耐震工事などが計画されている。

(以上、9図参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)

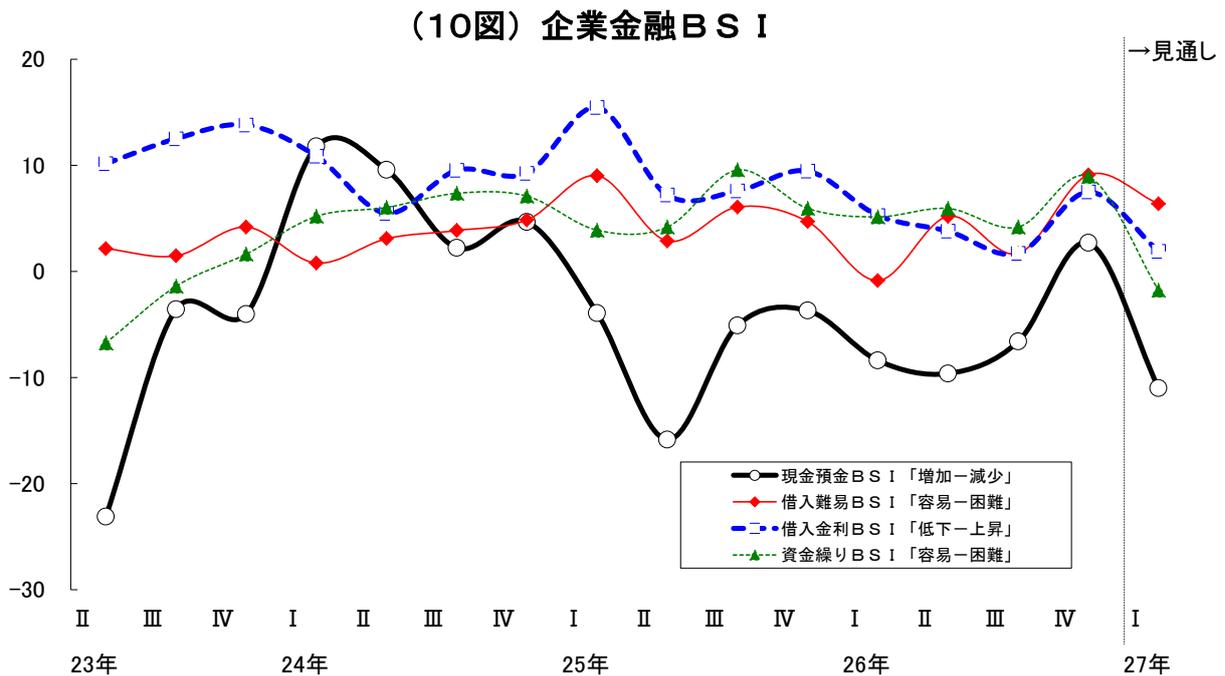


(9) 企業金融の動向 —全体的に緩和の状況—

26年10～12月期の企業金融の動向をみると、「現金・預金BSI」が前期比9.3ポイント上昇の2.7となり、手元資金の減少傾向が幾分後退した。「借入難易BSI」は同7.4ポイント上昇の9.1、「借入金利BSI」が同5.8ポイント上昇の7.5、「資金繰りBSI」は同4.7ポイント上昇の8.9と全体的に金融緩和策実施の影響が窺われる内容となった。

来期は各BSIとも低下が見込まれており、手元資金の厳しさや、借入金利の上昇傾向が強まるなど、資金繰りの困難性が幾分強まる見通しとなっている。

(以上、10図、付表参照)



(付表) 企業金融BSIの推移

	現金預金BSI (増加-減少)	借入難易BSI (容易-困難)	借入金利BSI (低下-上昇)	資金繰りBSI (容易-困難)
25年10-12月期	-3.7	4.7	9.4	5.9
26年1-3月期	-8.4	-0.9	5.3	5.1
26年4-6月期	-9.6	5.2	3.8	5.9
26年7-9月期	-6.6	1.7	1.7	4.2
26年10-12月期	2.7	9.1	7.5	8.9
来期見通し	-11.0	6.4	1.9	-1.8

(10) 地区別の状況 —「業況BSI」3地区とも上昇—

26年10～12月期の「業況BSI」を地区別にみると、県南地区が前期比5.2ポイント上昇の△10.2、津軽地区が同4.2ポイント上昇の△20.0、青森地区が同0.7ポイント

上昇の5.4と3地区ともに上昇した。

主要BSIをみると、まず「生産高BSI」は、青森地区が前期比39.3ポイント低下の△25.0、津軽地区が同12.5ポイント低下の△

50.0、県南地区が同 12.0 ポイント低下の 5.6 となった。

「出荷高 BSI」は、青森地区が前期比 75.0 ポイント低下の△75.0 と大幅に低下したほか、津軽地区が同 12.5 ポイント低下の△50.0、県南地区が同 6.9 ポイント低下の 5.6 となった。

「売上高 BSI」は、県南地区が前期比 21.3 ポイント上昇の△12.0 となった。一方、津軽地区が同 43.8 ポイント低下の△43.8、青森地区が同 18.9 ポイント低下の△11.5 となった。

建設業の「受注高 BSI」は、津軽地区が前期比 37.5 ポイント上昇の 37.5 となった。一方、県南地区が同 27.0 ポイント低下の

28.6、青森地区が同 20.8 ポイント低下の 12.5 となった。

「採算 BSI」は、津軽地区が前期比 8.0 ポイント上昇の△23.3、青森地区が同 4.9 ポイント上昇の 0.0、県南地区が同 3.0 ポイント上昇の△22.0 と 3 地区ともに上昇した。

来期の「業況 BSI」をみると、津軽地区が当期比 10.0 ポイント上昇の△10.0、一方、青森地区が同 36.8 ポイント低下の△31.4、県南地区が同 2.0 ポイント低下の△12.2 と 1 地区上昇、2 地区低下となった。他の主要 BSI については、津軽地区で上昇が窺われるものが多い一方、青森地区、県南地区では総じて低下が見込まれている。

(以上、1 表 参照)

(1 表) 地域別 B S I の推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
25年10-12月期	18.6	7.5	24.1	-25.0	-11.1	36.8	12.5	11.1	42.1
26年 1- 3月期	9.8	5.7	6.3	-40.0	0.0	33.3	0.0	0.0	13.3
26年 4- 6月期	-13.6	-15.0	-10.5	25.0	-42.9	-15.8	-12.5	-57.1	10.5
26年 7- 9月期	4.7	-24.2	-15.4	14.3	-37.5	17.6	0.0	-37.5	12.5
27年10-12月期	5.4	-20.0	-10.2	-25.0	-50.0	5.6	-75.0	-50.0	5.6
来期見通し	-31.4	-10.0	-12.2	-25.0	-16.7	5.6	-25.0	16.7	-5.6
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
25年10-12月期	12.0	21.7	3.8	10.0	0.0	20.0	28.0	20.0	0.0
26年 1- 3月期	17.9	15.0	24.0	12.5	12.5	0.0	12.5	-18.8	10.3
26年 4- 6月期	-3.7	-13.6	0.0	-10.0	-18.2	10.0	14.3	-25.0	8.3
26年 7- 9月期	7.4	0.0	-33.3	33.3	0.0	55.6	11.5	5.6	3.1
27年10-12月期	-11.5	-43.8	-12.0	12.5	37.5	28.6	-11.1	-30.8	-9.7
来期見通し	-36.0	-25.0	-20.8	-37.5	-12.5	-57.1	-16.7	-23.1	-6.5
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
25年10-12月期	11.9	-2.6	11.3	4.7	-10.0	-1.8	9.1	-13.2	17.0
26年 1- 3月期	7.5	-11.8	21.7	0.0	-11.4	0.0	15.4	-15.2	13.6
26年 4- 6月期	9.3	-17.9	19.3	-11.4	-28.2	-11.9	11.6	-11.1	12.5
26年 7- 9月期	19.0	-15.6	0.0	-4.9	-31.3	-25.0	16.7	-6.9	0.0
27年10-12月期	16.7	0.0	22.9	0.0	-23.3	-22.0	32.4	-17.9	6.4
来期見通し	-5.6	-14.8	-2.0	-18.9	-16.7	-12.2	13.5	-21.4	-2.1

3. 経営上の問題点

—「売上・受注不振」の割合が増加—

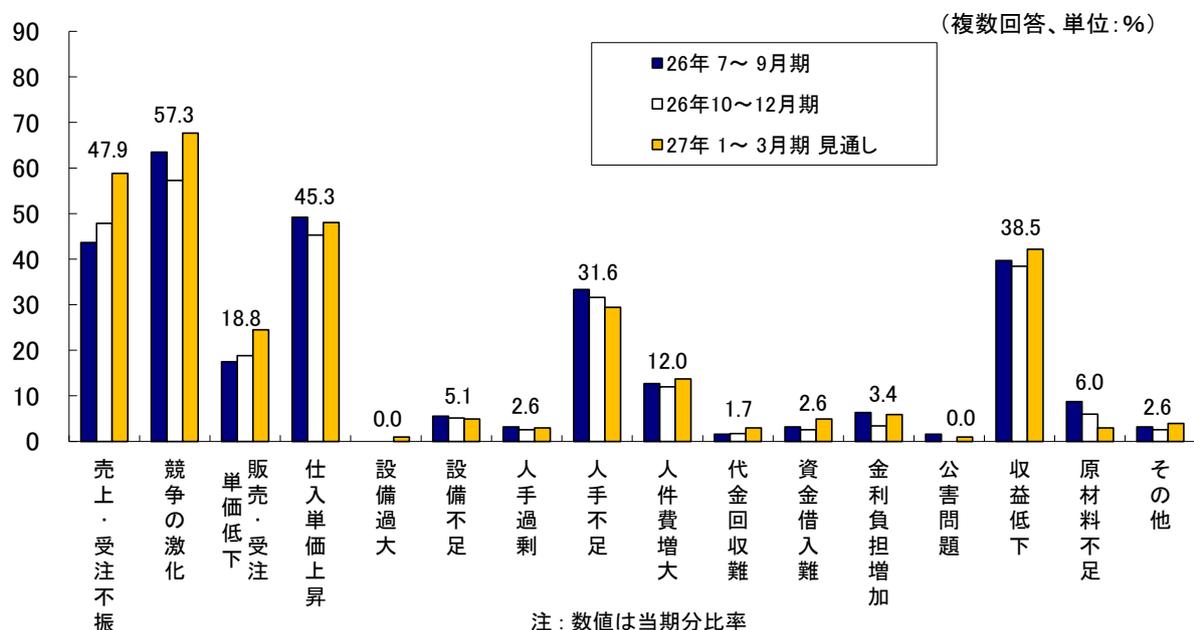
26年10～12月期の経営上の問題点については、「競争の激化」が57.3%で最多となった。次いで「売上・受注不振」が47.9%となり、以下、「仕入単価上昇」が45.3%、「収益低下」が38.5%、「人手不足」が31.6%などと続いた。「競争の激化」が依然としてトップを占める中、「売上・受注不振」、円安による輸入物価上昇の影響などから「仕入単価上昇」の割合が増加した。

産業別にみると、産業間で多少ばらつきがみられた。「競争の激化」は建設業、卸売業、小売業で最多となったが、「売上不振」は製造業(素材関連型)で、「仕入単価上昇」は製造業(生活関連型)、運輸サービス

業でそれぞれ最多となった。「収益低下」は建設業が5割超と高い割合を示した。また、「人手不足」は小売業、運輸業が5割、製造業(生活関連型)と建設業が約4割の高い割合を示した。

なお、来期の経営上の問題点については、「競争の激化」が当期比10.3ポイント増の67.6%と依然として最多となる見通しである。また「売上・受注不振」、「仕入単価上昇」、「収益低下」などの割合も増加する見通しとなっている。(以上、11図、付表参照)

(11図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売・受注単価低下	仕入単価上昇	人手不足	人件費増大	金利負担増加	収益低下
25年10～12月期	37.7	52.2	16.7	50.7	26.8	15.9	5.1	29.0
26年1～3月期	47.9	64.1	22.2	58.1	23.1	13.7	3.4	37.6
26年4～6月期	48.6	58.6	17.9	55.7	25.7	12.9	5.0	40.0
26年7～9月期	43.7	63.5	17.5	49.2	33.3	12.7	6.3	39.7
26年10～12月期	47.9	57.3	18.8	45.3	31.6	12.0	3.4	38.5
来期見通し	58.8	67.6	24.5	48.0	29.4	13.7	5.9	42.2

4. 来期の見通し

来期(27年1~3月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比9.7ポイント低下の△17.5となる見通しである。産業別にみると、製造業が同17.9ポイント上昇の3.6と見込まれる一方、建設業が同53.1ポイント低下の△22.7、卸売業が同15.0ポイント低下の△40.0とそれぞれ大幅に低下すると見込まれるほか、運輸・サービス業も同3.6ポイント低下の△13.3となる見通しである。なお小売業は当期と同じ△28.6と見込まれる。

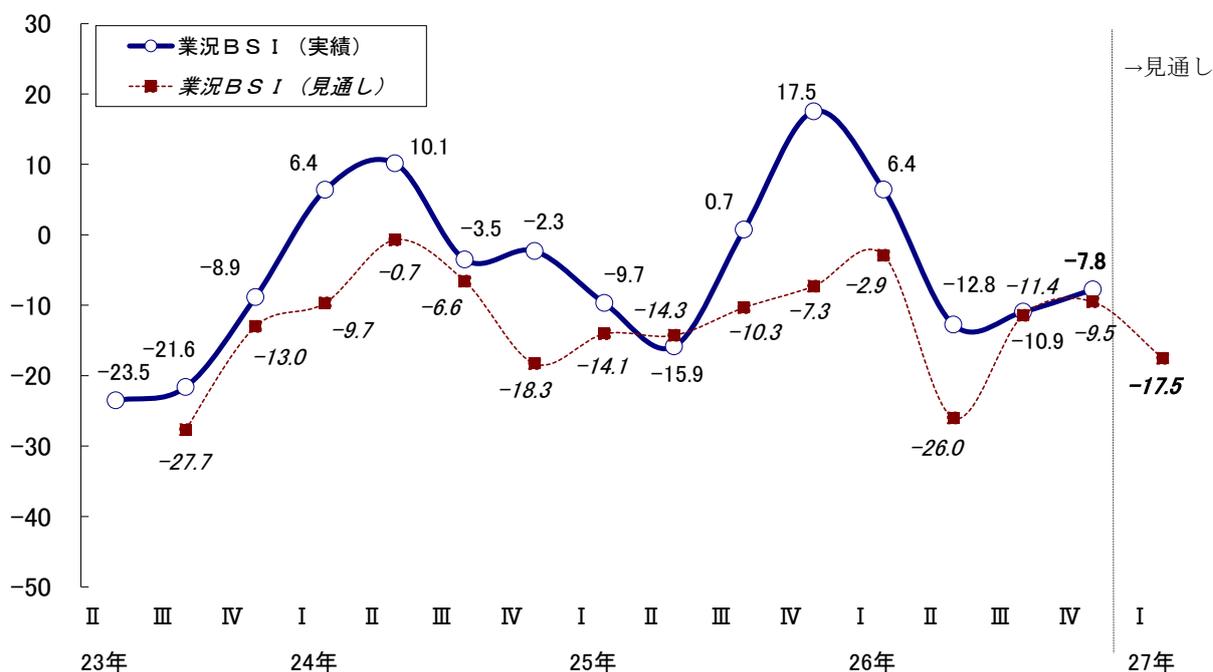
次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比0.2ポイント低下の△15.5と、幾分の低下が見込まれている。産業別にみると、製造業が同17.9ポイント上昇の0.0、小売業が同6.7ポイント上昇の△20.0が見込まれるほか、卸売業は当期と同じ△15.0、建

設業が同13.0ポイント低下の△21.7、運輸・サービス業が同10.8ポイント低下の△23.3と見込まれているなど、産業間でばらつきがみられる。

このほかの主要BSIでは、「生産高BSI」、「操業度BSI」、「出荷高BSI」で上昇が見込まれる一方、「受注高BSI」、「売上高BSI」が低下する見通しとなっている。製造業の生産活動が活発化する一方、建設業、卸売業、小売業、運輸・サービス業で幾分の停滞が予想される。

(以上、1~12図、付表 参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	26年10-12月期	-14.3	30.4	-25.0	-28.6	-9.7	-7.8
	来期見通し	3.6	-22.7	-40.0	-28.6	-13.3	-17.5
採算BSI	26年10-12月期	-17.9	-8.7	-15.0	-26.7	-12.5	-15.3
	来期見通し	0.0	-21.7	-15.0	-20.0	-23.3	-15.5

【特別調査】 県内企業の平成26年冬のボーナス支給状況

業況調査と並行して、県内企業の平成26年冬のボーナス支給状況について特別調査を実施した。調査要領は企業業況調査と同様であるが、回答企業は75社であった。

ー平均支給額は前年比0.7%減、製造業、卸売業のみ増加ー

県内企業の平成26年冬のボーナス平均支給額は31万5,599円となり、前年比で率にして△0.7%、金額で2,083円下回った。(回答企業の前年冬実績比)

産業別の平均支給額をみると、製造業が前年比0.6%増、金額にして1,774円増の30万5,553円、一方、非製造業は同1.0%減、3,309円減の31万9,007円となった。非製造業を業種別にみると、建設業が前年比6.1%減、15,690円減の23万9,588円、卸売業が同13.7%増、4万7,572円増の39万4,786円、小売業が同7.4%減、3万429円減の37万9,714円、

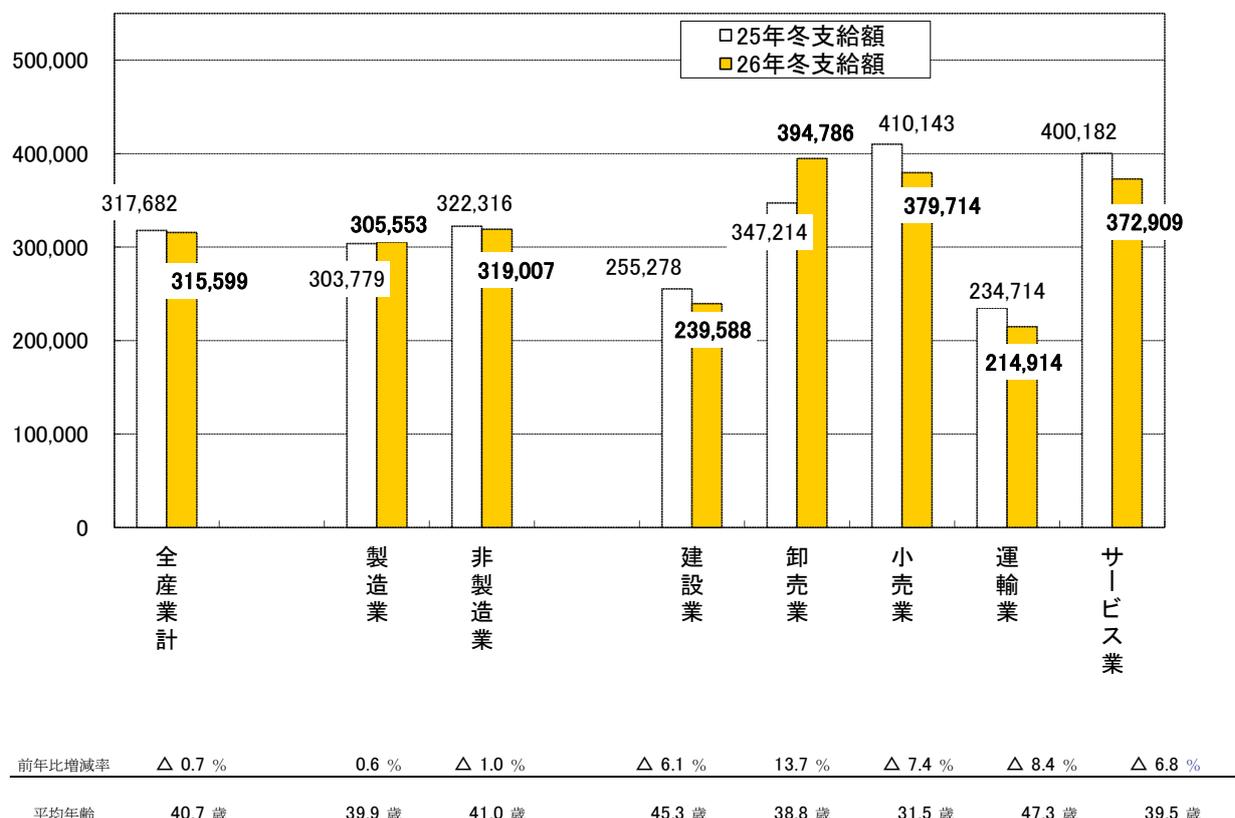
運輸業が同8.4%減、19,800円減の21万4,914円、サービス業が同6.8%減、2万7,273円減の37万2,909円となった。

今冬のボーナス支給状況をみると、製造業と卸売業で前年実績を上回ったものの、建設業、小売業、運輸業、サービス業はいずれも前年実績を下回った。

非製造業での業種別のボーナス支給状況をみると、唯一増加となった卸売業で5万円弱の増加となった一方、建設業、小売業、運輸業、サービス業では、約1万6千円～約3万円の減少となっている。

(以上 1図 参照)

(円) (1図)平成26年冬のボーナス支給状況

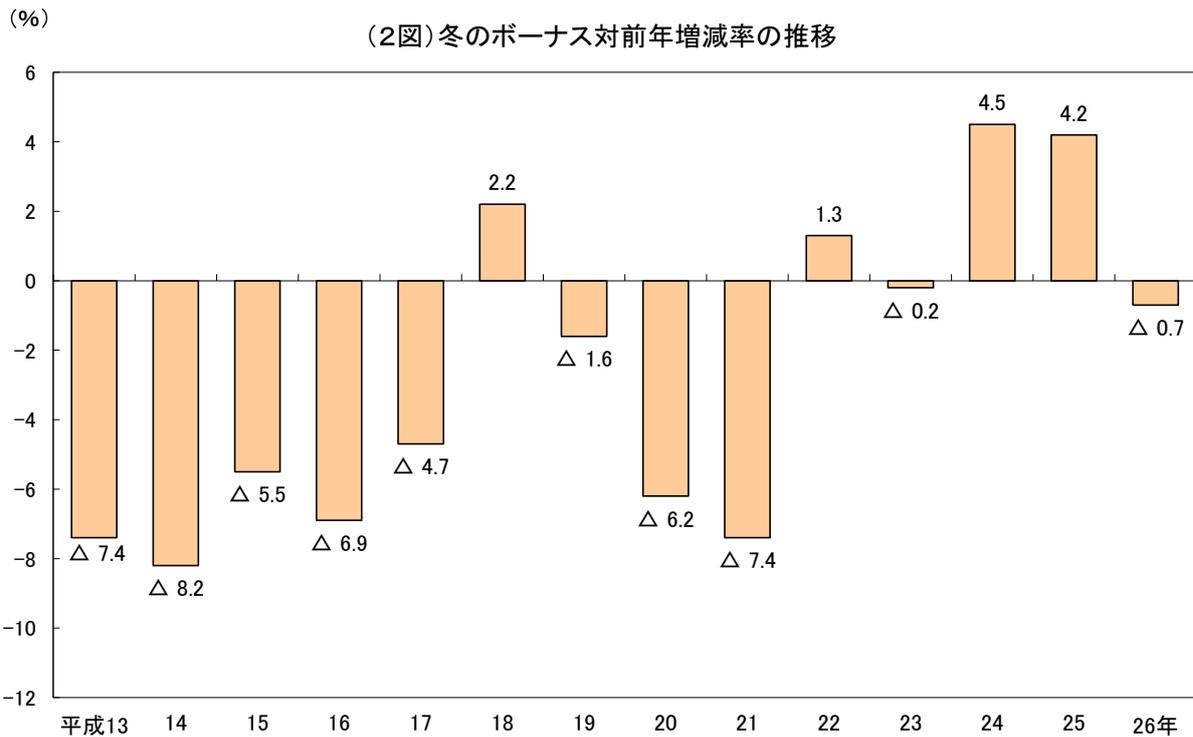


県内企業の冬のボーナス支給状況を前年比増減率(当行調査)で見ると、わずかながら3年ぶりのマイナスとなった。

昨年まで2年連続4%超のプラスだった県内企業の冬のボーナス支給状況だが、駆け込み需要の反動減の影響から、県内

企業を取り巻く経営環境は厳しい状況が続き、ボーナス支給については、増加した業種も一部みられたが、全体としては昨年実績を下回る結果となった。

(以上 2図 参照)



【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当 : 竹内 慎司

TEL. 017-777-1511